

銀行強盗

西 関 隆 夫

初めて外国に行ったのは 1977 年にアメリカ ピッツバーグのカーネギーメロン大学に留学した時です。研究や講義の仕方など固いことで感動したり、感銘を受けたことは数多いので述べないことにします。感心した柔らかいことを一つだけあげると、米国人同士の会話にウィットとユーモアがあり、しかも相手の目をしっかり見て話すことです。日本人同士の話しのやりとりは少しとげとげしいと思いませんか。日本に帰ってきてからは、もう少しウィットとユーモアがきいた会話をしようと心掛けてきました。その一例を紹介しよう。もっとも成功例か失敗例かは読者の判断におまかせします。

銀行で定期預金をおろす時に窓口で何にお使いですかとしつこくきかれるのにウンザリしたことがありますか。自分のお金を何に使おうが勝手でしょ。何故にいちいち使用目的を銀行の窓口で申告しなきゃならないんだと思いませんか。米国へ行く前は、こんな時いつもブスとした顔で「車を買うんだけど」とか答えていました。帰国後はもう少しウィットのきいた対応ができないかと常々考えていました。とうとうそれを試みる機会が某都市銀行仙台支店に定期預金をおろす時にやってきました。窓口では大学を卒業したばかりだと思われる新人の男子行員がてきぱきと対応していました。

その時の会話のやり取り

「定期預金をおろしたいんだけど」

「何にお使いでしょうか？」

(きたきた、今度こそ何か言ってやるぞ)

「このお金でピストルを買って銀行強盗に入ろうと思っています」

すかさず、その行員さん、

「戸締りを厳重にしてお待ち申し上げます」

ここでお互いに目を合わせてニッコリ。

してやったつもりが、してやられてしまったかも。でもこちらの気持ちが婉曲に伝わり、なおかつトゲトゲしい会話にならなかったと思います。こんな時、読者の皆様はどう答えているのでしょうか。もっとおもしろいウィットとユーモアがキイタ答え方があったらぜひ教えて下さい。